

日銀事務所長の あさひかわ経済 あれこれ No. 5

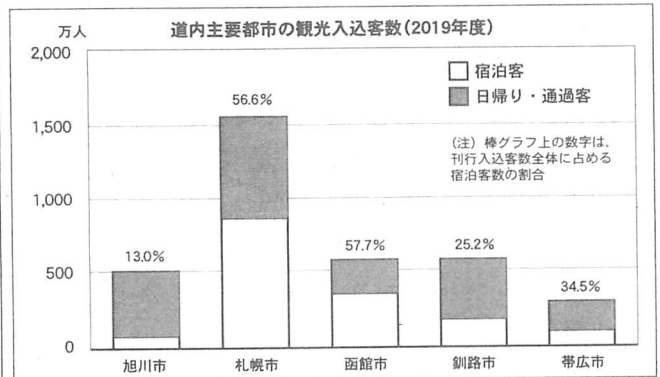
旭川の観光地としての 新たな可能性

前とは様変わりの爽やかで快適な夏を過ごしていきます。

ところで、今年の夏は再び拡大した新型コロナウイルス感染症の影響で、全国の観光地はどこも入客が回復していません。旭川でもインバウンドはもとより、道外からの観光客も少なく、観光地の入込客数は底を打つたといえ、例年に比べれば大きく減少した状態が続いています。ワクチンと治療薬が開発され、人々が安心して移動できるようになるまでは、インバウンドを含めた本格的な回復は望めないかもしれません。それまでの間は、道内の観光客を如何に呼び込むかが鍵になるでしょう。リピーターになってもらえるよう、自治体や関連業界が連携し、2回目以上の利用者

旭川に来て初めての夏を迎えました。これまでに最高気温が30℃を超えた日は、僅かに10日ほどです。湿度が低く、朝晩は気温が大きく下がるので、猛暑が続く前任地の静岡と比べると天国のようです。地元の電気工事業者から、年に数回は熱帯夜になることがあると聞き、自宅にエアコンをつけましたが、日中は空調の効いた職場で過ごし、帰宅後は窓を開ければ涼しいので、まだ一度も使用していません。以

何に呼び込むかが鍵になるでしょう。リピーターになってもらえるよう、自治体や関連業界が連携し、2回目以上の利用者



入込客に比べ、宿泊客が少ないことです。この点、旭川の夏は、私を感じたように、道外の人間にとっては大変涼しく快適です。避暑地として十分通用するのではないでしょう。市内には国内屈指の人気を誇る旭山動物園があるほか、大雪山

や美瑛、富良野といった景観に優れた観光地にも日帰りで行くことができず。また「食」も魅力です。物資の集散地である旭川では、道北の新鮮で美味しい山海の幸が、リーズナブルな価格で味わえます。加えて、中心部から車で30分以内の距離に、手頃な料金で楽しめるゴルフ場が幾つもあり、ゴルフ好きの方にはたまらない魅力でしょう。

夏だけでなく、冬の楽しみもあります。市内には、国際スキー連盟(FIS)公認の本格的なコースを備えたカムイスキーリンクスをはじめ、複数のスキー場があるほか、少し足を伸ばせば、層雲峡の氷瀑や紋別の流水など、北国の冬ならではの壮大な景観を楽しむこともできます。

今回のコロナショックでは、いわゆる3密を回避するために、企業で在宅勤務を導入する動きが広がりました。在宅勤務と言っても、働く場所は、必ずしも自宅に限定されません。リモート環境さえ整えば、夏は涼しく快適な避暑地で、冬はウィンタースポーツが満喫できるスノーリゾートで働くことも可能でしょう。

旭川のように、インフラが整った都市でありながら、季節を問わず、観光や食、スポーツなどを気軽に楽しめる、多彩な魅力にあふれたところは、そうはないのではないのでしょうか。様々なコンテンツを組み合わせれば、在宅勤務者やその家族に對して、長期滞在を促すことも可能だと思えます。そのためには、自治体や関連業界が連携し、地域を挙げて、こうした魅力をわかりやすい形でPRしていくことが重要です。まずは、近隣住民や道内客などを対象に始めてみて、コンテンツの身を磨きながら、道外客やインバウンドの来訪に備える。新型コロナに機に、旭川の観光地としての可能性が広がっていくことに期待したいと思います。

(毎月第四週に掲載します)



【大賀健司(おおがけんじ)】一九六五年神奈川県生まれ。青山学院大学法学部卒業。業務局企画役、青森支店次長、政策委員会企画役、静岡支店次長を経て二〇二〇年に旭川事務所長に就任。